

環境マネジメント

全店でISO14001の認証を取得しています。

平和堂は、環境の国際規格(ISO14001)の認証を本部及び全店で認証取得しており、社長をトップとした組織体制で環境マネジメントシステム(EMS)を運用しています。2015年度は10項目の目標のうち、5項目で目標を大幅に上回り、3項目で目標達成しました。しかし、生ゴミリサイクルの向上・平和堂エコピースクラブの拡大については目標未達でした。それぞれの原因分析と共に、2016年度は3ヵ年最終年度としてさらに高い目標に向けて全項目で目標を達成できるよう取組みを進めていきます。



2015年度の実績と2016年度の目標

◎ 目標を大幅に上回る ○ 目標達成 △ 目標未達

環境方針	2015年度目的・目標	2015年度実績	2016年度目的・目標
環境に配慮した商品づくりと提供を推進します	環境配慮型商品の販売拡大 環境セレクトの御奉仕高向上 環境セレクトの認知度向上 2014年度実績 86.6億円	92億円 102億7,775万円 (昨年比:118.6%)	◎ 環境配慮型商品の販売拡大 環境セレクトの御奉仕高向上 環境セレクトの認知度向上
省エネルギー・省資源を推進します	一次エネルギー ^(※1) 使用量の削減(電気・ガス・石油類) エコストア省エネ設備導入推進 2014年度対比(原単位)kwh/h・㎡	1%削減 3.11%削減 0.074kwh/h・㎡	◎ 一次エネルギー使用量の削減(電気・ガス・石油類) エコストア省エネ設備導入推進 2015年度対比(原単位)kwh/h・㎡
	配送車両の使用燃料の削減 センター集荷便数2014年度対比 2014年度実績4,498便	58%削減 ^(※2) 58.6%削減 累計 1,864便	◎ 配送車両の使用燃料の削減 センター集荷便数2015年度対比 2015年度:便数比
	水道使用量の削減 2014年度対比(原単位)ℓ/h・㎡	1%削減 2.15%削減 0.344ℓ/h・㎡	◎ 水道使用量の削減 2015年度対比(原単位)ℓ/h・㎡
	レジ袋の使用重量の削減 2014年度対比(原単位)kg/億円 (御奉仕高1億円当り)	1%削減 2.6%削減 173.7kg/億円	◎ レジ袋使用重量の削減 2015年度対比(原単位)kg/億円 (御奉仕高1億円当り)
地球温暖化防止のため、CO ₂ 排出量を削減します	CO ₂ 排出量の削減 原単位排出量2005年度対比(原単位) t-CO ₂ /h・㎡ 2005年度:55.183t-CO ₂ /h・㎡	35.3%削減 35.478t-CO ₂ /h・㎡ (※3)	○ CO ₂ 排出量の削減 原単位排出量 2005年度対比 (原単位) t-CO ₂ /h・㎡ 2005年度:55.183t-CO ₂ /h・㎡
廃棄物の削減と資源の有効活用に取り組みます	生ゴミのリサイクル率の向上 生ゴミ・魚アラ・廃食油リサイクルの推進 2014年度実績 54.0%	57.0% 54.7% (昨年比:+0.7%)	△ 生ゴミのリサイクル率の向上 生ゴミ・魚アラ・廃食油リサイクルの推進
	店頭回収リサイクルの推進 古紙回収ステーションの設置店舗数拡大 2014年度実績35店舗	44店舗 46店舗	○ 店頭回収リサイクルの推進 古紙回収ステーションの設置店舗数拡大
地域社会の環境保全活動を支援します	平和堂エコピースクラブの拡大 子ども環境学習の実施回数 2014年度実績回数102回	150回 実施回数141回 (昨年比:138.2%)	△ 平和堂エコピースクラブの拡大 子ども環境学習の実施回数
	平和の森づくりの推進 森づくり活動への参加人数の拡大 2014年度実績762名	900人 905名の参加 (昨年比:118.8%)	○ 平和の森づくりの推進 森づくり活動への参加人数の拡大

※1 一次エネルギーとは、電気使用量に加えてガス・石油類の使用量も電力量に換算したものです。また、エネルギー原単位とは、省エネ効率を比較するための指標で、一定の活動を行うのに必要なエネルギー量のことです。
 ※2 当初4%削減を目標としましたが、堺センターへの移行が順調に進んだため中に目標値を見直しました。
 ※3 CO₂排出係数は、外的要因を除くため2013年で固定。数値は本部を除く店舗のみの数値です。

環境会計

環境に配慮した経営を効率的に推進しています。

平和堂では、環境保全のための投資や費用を定量的に管理し、その効果を金額として把握することで、取組みの一層の効率化を図るとともに、合理的な意思決定を行うために環境会計に取り組んでいます。

新規出店や改装等への省エネ設備投資の増加により、地球環境保全コストが増加しましたが、資源・エネルギー使用量は、照明・空調・冷ケースの更新とLED導入、70店舗の従業員トイレの洋式化等により削減することができました。また、CO₂排出量は原発停止による電力会社の排出係数の上昇により増加しました。

容器法再商品化委託料は、レジ袋の削減と店頭回収の増加により約230万円の費用削減効果がありました。この効果の一部は、環境商品の普及啓発やお客さまへのポイント還元につなげています。

集計範囲 株式会社平和堂(単体)
対象期間 2015年2月21日~2016年2月20日

環境保全コスト

分類	主な取組み内容	2014年度		2015年度	
		投資額	費用額	投資額	費用額
(1) 事業エリア内コスト		1,213,121	946,776	1,529,225	972,602
内訳	(1)-1 公害防止コスト 空調設備・排水設備の管理・検査ばい煙測定・微量PCB調査費		127,544		137,904
	(1)-2 地球環境保全コスト 省エネ設備(空調・冷凍機・照明)導入 フロン回収破壊費	1,213,121	268	1,529,225	882
	(1)-3 資源循環コスト 廃棄物のリサイクル・処理費リサイクルセンター運営費		818,964		833,816
(2) 上・下流コスト	容器包装リサイクル法再商品化委託料・お買い物袋持参エコポイント費		184,768		180,387
(3) 管理活動コスト	ISO審査登録コスト・専任者人件費 社員教育・CSR報告書作成費		34,854		34,070
(4) 研究開発コスト		-	-	-	-
(5) 社会活動コスト	平和の森づくり・有料レジ袋収益金 寄附 環境展・子ども環境学習		15,197		12,652
(6) 環境損傷対応コスト		-	-	-	-
合計		1,213,121	1,181,595	1,529,225	1,199,711

環境保全効果

①事業エリア内コストに対応する効果

分類	環境パフォーマンス指標(単位)	2014年度	2015年度
事業活動に投入する資源に関する効果	電気使用量 (MWh)	292,726	287,635
	ガス使用量 (千m ³)	3,332	3,182
	重油・灯油使用量 (kl)	1,846	1,722
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	軽油使用量 (kl)	5,130	5,394
	水道使用量 (千m ³)	1,642	1,627
	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	182,424	185,502
	廃棄物総排出量 (t)	32,478	34,321
	廃棄物最終処分量 (t)	9,936	10,192
	排水量 (千m ³)	1,642	1,627

②上・下流コストに対応する効果

分類	環境パフォーマンス指標(単位)	2014年度	2015年度
事業活動から産出する財・サービスに関する効果	レジ袋使用削減枚数(千枚)	168,245	184,682
	牛乳パック回収量(t)	265	262
	食品トレー回収量(t)	604	632
	ペットボトル回収量(t)	1,086	1,316

環境保全対策にともなう経済効果

効果の内容		(単位:千円)	
		2014年度	2015年度
収益	店頭回収品リサイクル売却益	29,580	28,296
	有料レジ袋収益金	7,200	10,727
費用節減	省エネ設備導入効果	349,191	185,069
	お買い物袋持参推進によるレジ袋費の節減	412,883	417,870
	レジ袋使用減による容器法再商品化委託料の節減	37,002	39,332
	リサイクル推進による廃棄物処理費の節減	8,172	9,394
合計		844,028	690,688